

速報

温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT) 打上げ成功

宇宙航空研究開発機構 GOSAT プロジェクトチーム

Successful Launch of Greenhouse gases Observing Satellite "IBUKI" (GOSAT)

GOSAT Project Team, JAXA

「いぶき」は、平成 21 年 1 月 23 日 12 時 54 分 (JST ; 日本標準時間) に、種子島宇宙センターから、H-IIA ロケット 15 号機により打ち上げられました (図 1)。「いぶき」は、同日 13 時 10 分 (JST) にロケットから正常に分離し (図 2 参照)、オーストラリアのパス局 (13 時 14 分 (JST))、チリのサンチャゴ局 (13 時 47 分 (JST)) で太陽電池パドルの展開が正常に行われ (図 3)、必要な電力が得られていることを確認しました。

1 月 24 日には、チリのサンチャゴ局において標準姿勢制御モード (リアクションホイールを用いて衛星の姿勢制御を行い、衛星を精度よく地球方向に向けるモード) への移行を確認し、計画通り 17 時 15 分 (JST) にクリティカル運用期間 (衛星分離から標準姿勢制御を確立するまでの期間) を終了しました。

現在、衛星状態は正常です。今後 3 か月間の初期機能確認運用期間の中で、衛星の各機器の動作確認を順次実施していきます。その後、初期校正検証運用期間に入り、レベル 1 プロダクト (輝度スペクトル) の特性評価 (校正) や、レベル 2 プロダクト (CO_2 , CH_4 濃度等) の精度評価 (検証) を実施します。レベル 1 プロダクトの配布は、打上げ 9 ヶ月後から、レベル 2 プロダクトの配布は、打上げ後 12 ヶ月後となる予定です。

「いぶき」は、温室効果ガスの全球の濃度分布とその時間的変動を測定し、また、亜大陸レベルでの吸収排出量の推定精度を高めることにより、京都議定書に基づく組織的観測の維持及び開発の促進に貢献するとともに、京都議定書第 1 約束期間 (2008~2012 年) における地域ごとの吸収排出量の把握や森林炭素収支の評価等の環境行政に貢献することを目的とした衛星です。今後、観測データを世界に発信し、地球温暖化防止への国際的な取り組みに役立つことを目指しています。

最後に、GOSAT 計画を共同で推進している国立環境研究所、環境省並びに GOSAT サイエンスチームの皆様へ深甚の謝意を表します。



図 1 「いぶき」搭載 H-IIA ロケット 15 号機の打上げ

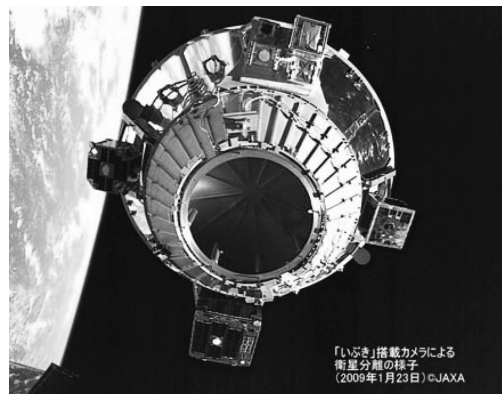


図 2 「いぶき」搭載カメラによるロケット/相乗り小型副衛星の様子

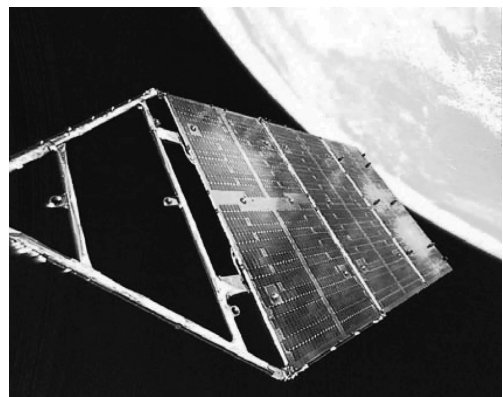


図 3 「いぶき」搭載カメラによる太陽電池パドル展開状況